

広報

こだま

2018

Vol.30

【栗田病院 広報誌】

新年のご挨拶

理事長 栗田 裕文・院長 安部 秀三

広報散歩

認知症疾患医療センター

フォーカス くりた人

看護師 大内宏美

栗田ダイアリー

行事・イベント紹介



有朋会・理念 ～私達の求める姿～

私たちの使命は、患者様、利用者様、ご家族様、地域連携機関、地域住民、有朋会職員と
いったあらゆる方々の「こころ」に、温かな（ホットな）灯りをともすこと、笑顔を増やし続ける
ことです。その使命を果たすことで、以下3つの姿を実現します。

1. 医療・介護・福祉を統合した高品質のサービスを設計・開発し提供し続けている。
2. スタッフみなが有朋会の一員であることに胸を張っており、患者様、利用者様、ご家族様に
質の高いサービスを提供している。
3. 働きたい・学びたいと希望する方が絶えることなく集まってくる。



医療法人社団 有朋会
栗田病院

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL: 029-298-0175 Mail: yuhokai@yuhokai-kuritah.com
<http://www.yuhokai-kuritah.com/>

理事長・院長より新年のご挨拶

理事長よりご挨拶

新年、明けましておめでとうございます。理事長の栗田裕文です。こうして今年も新年のご挨拶が出来ますこと、大変うれしく思います。

医療法人社団有朋会の昨年は、様々な方々との出会いや、学びを得る出来事がたくさんあり、そして創立50周年という節目の年でもあったりして、とても実り多い1年でした。これもひとえに、患者様・利用者様やご家族様、連携をいただいております諸機関をはじめとした地域の皆様、そして有朋会スタッフの皆さん等々、大勢の方々に支えていただき、応援をいただいているお陰と実感しております。この場をお借りして改めて御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

表紙に有朋会の理念が書いてございますが、私たちは、患者様・利用者様、ご家族様等々、たくさんの方々の「こころ」に、温かな（ホットな）灯りをとらすこと、笑顔を増やし続けることを使命としております。今年もその使命を全うしていく所存です。もし、そうでないことがございましたら、どうぞ遠慮なく



当センターの役割は、①専門医療相談の実施、②鑑別診断とそれに基づく初期対応、③身体合併症及び行動・心理症状（BPSD）※1への対応、④地域連携の推進、⑤専門医療・地域連携を支える人材の育成、⑥情報発信などが挙げられます。

また、当センターでは、平成26年度より認知症または認知症の疑いで初診予約をお取りいただいた方を対象に、初診前にご自宅や入所施設を訪問し、診察に必要な情報をうかがう「初診前訪問」を実施しています。これは全国的にも珍しく、県内では当センターが初めて開始した取り組みです。具体的には、生活歴・現病歴や既往身体疾患、ADL※2・I・ADL※3などをうかがった上で、簡単な認知機能検査を実施し、BPSDや介護負担度の評価も行っています。看護師と作業療法士が担当し、それぞれの特性を活かした評価が行えるのが特徴です。初診前訪問を実施することで、初診時の所要時間が短縮でき、患者様・ご家族様の負担軽減につながっています。また、訪問時に様々な相談を受け、必要に応じて関係機関との連



作業療法士 松本洋美 精神保健福祉士 櫻井莊子

ご指摘お叱り下さいますよう、お願い申し上げます。有朋会が理念に掲げる、その求める姿を目指しての歩みの中、全く平坦な道のものはないように、これからも様々なことが（嬉しいことが沢山、そうでないものも、もしかすると）起こるでしょう。そして、例えどんなことが起ころうとも、有朋会が目指す先や使命には何ら変わりはありません。使命・求める姿をしっかりと心に留め置いて歩みを続けて、様々な経験を通して学び、成長し、「こころ」の未来を創造して参ります。

今年も皆様と手を携えながら、共に歩んでいきます。ご指導、御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。どうか皆様にとっても、素晴らしい1年でありますように。

今年もよろしくお願い申し上げます。

（理事長 栗田裕文）

院長よりご挨拶

新年明けましておめでとうございます。新たな年を迎え皆様方も清々しい新年を迎えられたこと、お喜び申し上げます。院長としてより一層気持ちを引き締めて運営していく所存です。本年もよろしくお願いたします。

今年2018年は診療報酬、介護報酬の同時改訂であるだけでなく、国の重点施策である5疾病5事業に精神疾患が追加され初めての改訂になる第7次医療計画が開始されます。地域で進む高齢化のなかで限られた社会保障費をより有効に利用するための改訂がなされますが、現状の問題点の改善だけでなく2025年に向けて国が進める地域包括ケアを見据えた改訂となります。新たな医療介護提供体制を構築していくという方針ですので、我々医療機関もこの変化に柔軟に対応していく必要があります。

当法人はこの地域において①精神科急性期医療、



②認知症医療・介護、③療養病棟からの退院支援による法人施設等への地域処遇、という3つのケアシステムの充実を図りつつ運営しております。これに加え、当法人が50周年を迎えた2017年からは、職域でのメンタルサポート、健康教室、認知力アップデイケアなどを開始し、当法人として④番目の事業である「地域の方々のこころの健康増進、疾病予防」にも医療機関として積極的に活動を始めました。今年も上記の4つを念頭に運営していきたいと考えております。

地域の自治体、医療機関、介護福祉機関、様々な関係機関、当事者の方、さらには地域住民の方におかれましては、当法人が現在310余名という多くの専門職種集団の力を合わせ、精神科医療機関として信頼されるより良い法人を目指して取り組んでいきたいと思っております。職員各々の日々の自己研鑽や地域の方々との連携・対話に努めつつ、これまで以上に柔軟な発想のもとさまざまなニーズに対応できる法人を目指し取り組んでいきます。ぜひ今後ともよろしくお願申し上げます。

（院長 安部秀三）

広報散歩

『認知症疾患医療センター』

部署の成り立ちとスタッフ構成

認知症疾患医療センターは、平成21年12月に茨城県より指定を受け事業を開始しています。現在スタッフは、センター長（栗田病院院長）と精神保健福祉士2名、看護師1名、作業療法士1名で構成されています。以前はセンター長と精神保健福祉士2名でしたが、この3年で2職種増え、多職種の視点を持つて業務にあたるできるようになりました。

認知症疾患医療センターの機能について

当センターの役割は、①専門医療相談の実施、②鑑別診断とそれに基づく初期対応、③身体合併症及び行動・心理症状（BPSD）※1への対応、④地域連携の推進、⑤専門医療・地域連携を支える人材の育成、⑥情報発信などが挙げられます。

また、当センターでは、平成26年度より認知症または認知症の疑いで初診予約をお取りいただいた方を対象に、初診前にご自宅や入所施設を訪問し、診察に必要な情報をうかがう「初診前訪問」を実施しています。これは全国的にも珍しく、県内では当センターが初めて開始した取り組みです。具体的には、生活歴・現病歴や既往身体疾患、ADL※2・I・ADL※3などをうかがった上で、簡単な認知機能検査を実施し、BPSDや介護負担度の評価も行っています。看護師と作業療法士が担当し、それぞれの特性を活かした評価が行えるのが特徴です。初診前訪問を実施することで、初診時の所要時間が短縮でき、患者様・ご家族様の負担軽減につながっています。また、訪問時に様々な相談を受け、必要に応じて関係機関との連

絡調整を行ったり、緊急性の有無を判断し、必要時には早めの受診・入院調整を行ったりもしています。

このほかの活動として、先述した地域連携・人材育成・情報発信にも繋がりますが、地域包括支援センターの方々と協力をいただき、各地域で小規模な研修会や事例検討会を開催しています。小規模な研修会は積極的な発言や活発な意見交換ができ、より充実した会を行うことができます。このような機会を通して、本当の意味での顔の見える関係、なんでも相談できる関係を築いてきました。

このように当センターの職員が地域に向向していくことにも、大きな意味があると思っています。

どんなところにやりがいを感じますか？

初診前訪問を実施していく中で、「自宅に訪問してもらえたから安心して話ができた」、「本当は病院に行くのは不安だったが、事前に話ができただけで不安が軽減した」、「訪問時に話した内容が先生にきちんと伝わっていて診察がスムーズだった」といった言葉をいただく事が多く励みとなっています。ご本人はもちろんご家族様も精神科への受診に不安や抵抗を感じる方もいらつしやるかと思えます。初診前訪問を行う事で、少しでもその気持ちを和らげる事ができればうれしいです。初診前訪問は、一度のみの訪問となりますが、その中でもきちんと信頼関係が築けるような日その日の出会いを大切にしています。その中で、それぞれの想いに寄り添い、笑顔がみられたり、感謝の言葉をいただくことや私たちが嬉しいですね。ご本人やご家族様以外にも関係機関からの依頼も増えてきています。この活動が地域の中で認知されはじめ、本当の意味での顔の見える関係が根付いてきていると感じています。

現在力を入れている取り組み、これらの認知症疾患医療センターは？

法人内の他部署との連携はもちろんですが、法人外の関係機関の方と連携させていただく事が多くなりました。特に地域包括支援センターと連携する機会も多く、実際にケースを通した関わりもあれば、たとえ認知症になつても安心して生活できる地域づくりを行っていくためにお互いが協力しての活動も増えました。このほかにも、

医療機関や介護関係機関、行政、地域の方々など、多くの方とのつながりを大切にしています。先ほどの初診前訪問を行うケースの中には、地域や関係機関と連携して行うものもあります。一緒に訪問にうかがう事もあるのですが、共に悩み、共に考えていく中で本当の連携が生まれていくものだと思います。

「認知症予防」も力を入れている取り組みの一つです。栗田病院では、かねてより認知症治療の中核病院として、鑑別診断や行動・心理症状（BPSD）への対応を中心に行っていました。現在はこれらに加え、予防の観点から、地域住民や関係機関の方を対象に「健康セミナー」を開催しています。健康セミナーは毎回多くの方に参加いただいております。中には毎回のように参加してくださる方もいます。またMCI※4の方を対象とした「脳活性化デイケア」も実施しています。登録者数も増えており、地域の方々の「認知症予防」「健康寿命」への関心の高さを実感しています。これらの活動を通し、認知症疾患医療センターの立場で地域と連携し、認知症予防に取り組む事で、地域の健康づくりの推進にも貢献したいと考えています。「健康で長生きすること」への知識の普及活動を行い、地域の方々の健康寿命の延伸や活性化に貢献できれば幸いです。

さらに平成30年4月からは、那珂市より委託を受け、認知症初期集中支援チームを開始する予定です。認知症の早期発見や困難事例への対応力が求められるかと思えます。また、鑑別診断や入院の依頼が増加する可能性もあるので、初診前訪問での経験を活かし、柔軟に対応できるように努めていきたいです。



看護師 小野浩隆

※1 行動・心理症状（BPSD）：不眠や徘徊など、身体の場合や環境・介護方法に影響を受け現れる症状。
 ※2 ADL：日常生活動作。食事・更衣・移動・排泄・整容・入浴など、生活を営む上で不可欠な基本的行動。
 ※3 I・ADL：手動的日常生活動作。電話の使い方・買い物・家事・服薬管理・金銭管理など、ADLよりも複雑で高度な行為や動作。
 ※4 MCI：軽度認知障害。もの忘れがあっても日常生活には支障がない、正常と認知症の中間の状態。

フォーカス くりた人



認知症治療病棟（マロン病棟）
看護師 大内宏美

当院で働く、現場職員の声をお届けします。

配属部署での役割や活動、担当業務

私は認知症治療病棟で看護師として勤務しています。看護学校卒業後、新卒で栗田病院に入職して1年目になります。当病棟は、認知症による様々な精神的、身体的な治療を提供しています。病棟内における看護師の主な役割は、より在宅生活が困難となった方々を受け入れ、集中的な医療を向上させるための援助も大切で、患者様のQOL^{※1}を向上させるための援助も大切で、患者様の取り巻く環境やこれまでの人生、さらにはご家族様といった多面からのアプローチを行うなど個別性を重視したケアを行っています。当病棟では部屋持ち制度を採用しており、介護福祉士とペアとなって業務を行います。看護師、介護福祉士が患者様に関する情報をきちんと共有することで、よりよいケアの提供が可能となりますが、担当する部屋は毎日変わり、患者様の症状や状況も日々変化しているため、毎朝の情報収集や申し送りは欠かせません。一日の主な業務内容は、バイタルサイン測定、リネン交換、輸液管理、排泄誘導、食事介助、各種検査、他病院への受診付き添いなどを行っています。他にも入浴リダー業務というものがありません。入浴は、患者様の状態に合わせて入浴可能か判断するところから始まり、入院されている患者様はADL^{※2}の自立度もそれぞれで、一部介助だけでよい方もいれば全介助を必要とする方もいます。高齢者は加齢とともに筋力低下、皮膚の脆弱化が現れやすく、様々な問題も起ってきます。入浴は、清潔保持だけでなく身体状況や皮膚の状態観察、ADL状況も観察する大切な場でもあります。患者様一人ひとりが安全に入浴できるようにサポートするのも私たち看護師の役割の一つです。

業務の中でのやりがいや嬉しかった事がありますか？

入院される患者様は認知症によるBPSD^{※3}が強く、はじめは帰宅要求や介護抵抗が多くみられます。治療が進み適切なケアを行う事で、次第に症状も落ち着いてくると、食事をしようとしなかった方が少しずつ食べられるようになったり、会話がほとんどせずコミュニケーションが取れなかった方から「ありがとう」や「お世話になったね」という感謝の言葉をいただいた時やりがいを感じます。つい最近の話ですが、受け持ちの患者様で食事をまったく摂ろうとしない方がいました。ゼリー食などいろいろ試みたのですが、どれもうまくいかず悩んでいると、ある時病棟にあったアイスは食べてくれたんです。心配していたご家族様にもすぐに報告しました。とても喜んでいただけ、患者様やご家族様の力になれたと実感できる出来事でした。

患者様との関わり、他スタッフとの関わり

認知症にはアルツハイマー型、レビー小体型、脳血管性など様々な症状も異なりますが、一貫して言えるのは自身の思っている事や伝えたい事を表現するのが苦手だということです。そこで私が患者様との関わりで心がけているのは「寄り添う」ということ。カルテや他スタッフからの情報でも患者様を知る事はできますが、より理解を深めるためには、これまでの人生や、好きなもの、嫌いなものなど直接お話しをすることが重要だと考えています。他スタッフとの関わりで心がけている事は情報共有です。患者様の変化に応じて、薬物療法や食事形態の変更、看護計画の修正などが必要となつてきます。毎日当たり前のように行っている事ですが、医師だけでなく薬剤師、管理栄養士、作業療法士などと連携しチーム医療を実践することで、様々な状況にも柔軟に対応できるようにしていきたいです。

看護師を目指したきっかけを教えてください。

私には二人の子どもがいます。一人目の出産の時は、初めての入院と難産が重なり、痛みとともに不安も大きな状況でした。そんなとき「痛いよね、つらいよね」、「赤ちゃんも頑張っているからママも頑張ろうね」とずっと手を握り、背中をさすってくれた看護師さんがいました。この体

験から「看護師」という職業に興味を湧き、自分も「人の役に立つ仕事をした」と考えるようになりました。看護師になる前にこの病棟で看護助手として働いていたのですが、看護師という夢を叶えるため、二人の子育てをしながら看護学校に入学する事を決めました。家事と看護学校の両立は想像以上に大変でしたが、3年間の勉強や実習を乗り越え看護師という職業に就けたことは私の誇りです。そして、看護助手として初めて医療の世界に飛び込んだ時に、なんの経験もない私にも丁寧に仕事を教えてくれたこの病棟に戻ってくる事ができ、看護師として再スタートできたことを嬉しく思っています。

これからの自分、今後の目標は？

看護助手の頃と比べると、精神面や身体面などより踏み込んだ関わりが必要となってきますが、先述したように患者様に「寄り添う」という気持ちが変わらず持ち続けたいと思っています。看護師としてのキャリアも浅く、現在は目の前の業務をこなすことで一杯一杯です。初めは自分が看護師という実感もなく、「看護師さん」と呼ばれてもピンとこない事もありました。年も明けてようやく実感も湧いてきましたが、まだまだ先輩方に助けていただく事は多いです。医療の現場ではミスは許されませんが、看護師となつて責任ある業務も増えてきましたが、一つひとつ丁寧に、そして確実に安全な医療を提供していきたいです。

認知症治療病棟で働くためには、認知症についての知識や技術が不可欠です。私自身まだまだ不十分な点がたくさんあるので、院内外での研修に積極的に参加させていただき専門職としてのスキルアップも目標としていきたいです。そして、チーム医療にも貢献したいです。医療は一人で行えるものではありません。たくさんのスタッフがそれぞれの特性を発揮し、患者様のために出来る事を常に考え業務を行っています。私も病棟の、そして栗田病院の一員として信頼される看護師、患者様やご家族様から「ここに入院してよかった、あなたに看護してもらえてよかった」と言ってもらえるような看護師を目指していきたいです。

※1 QOL：生活の質。人間らしく満足して生活しているかを評価する概念。
※2 ADL：日常生活動作。食事・更衣・移動・排泄・整容・入浴など、生活を営む上で不可欠な基本行動。
※3 行動・心理症状(BPSD)：不眠や徘徊など、身体の具合や環境・介護方法に影響を受け現れる症状。

栗田ダイアリー

栗田病院が開催した行事やイベントを紹介します。

- 2017 9月2日(土) 統合失調症家族教室
- 9月9日(土) 健康セミナー
- 9月10日(日) 職員旅行(バスツアー) ★
- 9月16日(土) 認知症家族交流会

- 2017 10月7日(土) 統合失調症家族交流会
- 10月14日(土) 芋煮会 ★
- 10月15日(日) 創立50周年記念祝賀パーティー
- 10月21日(土) 認知症家族教室
- 10月28日(土) 脳活性化デイケア体験会

- 2017 11月17日(金) 創立記念研究発表会
- 11月18日(土) 認知症家族教室
- 11月22日(水) 職員運動会 ★

- 2017 12月9日(土) 健康セミナー
- 12月16日(土) 認知症家族交流会
- 12月19日(火) 忘年会

Pick Up!

2017年9月10日(日)
職員旅行(バスツアー)
2017年11月22日(水)
職員運動会

有朋会は「楽しく働ける職場づくり」に力を入れています。一年を通して職員とご家族様を対象としたイベントがいくつも行われ、そのためのプロジェクトチームも発足されています。今回は9月に栃木県日光へのバスツアーを開催、11月には職員運動会が開催され、有朋会職員による熱い戦いが繰り広げられました。今後も職員の『笑顔』のための活動を続けていきます。



Pick Up!

2017年10月14日(土)
芋煮会

芋煮会は、地域に開かれた病院でありたいという想いから、肌寒くなってきたこの時期に地域の皆さま、利用者様、有朋会職員が集まり大鍋を囲む毎年恒例の行事です。食事を振る舞うだけでなく、レクリエーションも取り入れお子様にも好評の行事となっております。各部署より委員を選出し、一日かけて準備が行われます。例年の参加を大きく上回り大鍋いっぱい用意された芋煮もあつという間になくなり大盛況となりました。こうした地域の皆さまとの交流の機会を大切に、地域に根差した病院であり続けたいです。



診療案内

外来担当医一覧表

	診察室	月	火	水	木	金	土
午前	1 診	栗田	疋田	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	安部	高橋	堤	木滝	堀	第3・5週 吉川
	3 診	堤	早坂	木滝	早坂	疋田	高橋
	5 診				翠川	井出	翠川
午後	1 診	栗田	田中	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	安部	高橋	木滝	木滝		
	3 診		佐藤	竹下			第3週 鈴木
	5 診						

初めての外来受診・入院を希望される方へ

1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。
2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しい話を伺い、その後ご予約をお取りします。

※現在他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要になります。

※当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

■ = 内科

受付時間 8:30～11:30 / 11:31～16:00
 診察時間 9:00～ / 13:30～
 ＊精神科外来は完全予約制になります。
 ＊当日のご予約は行っておりません。前日までにご予約をお願い致します。
 予約電話対応時間 月～土（祝日を除く）9:00～17:00 TEL.029-298-0175

関連施設

地域生活支援事業部

障害福祉サービス事業所 自立訓練(生活訓練) ショートステイ

「くりの実」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505 TEL&FAX.029-295-1834

障害福祉サービス事業所 グループホームくりの木

「第1くりの木」 「第2くりの木」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7652
 「第3くりの木」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7680 FAX.029-295-7681
 「くりあん」 〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3429-2 TEL.029-231-2280 FAX.029-231-2281

認知症デイサービス

「クリクリ瓜連」 〒319-2103 茨城県那珂市中里1365-7 TEL.029-270-9550 FAX.029-270-9558
 「クリクリ住吉」 〒310-0844 茨城県水戸市住吉町20-6 TEL.029-248-1001 FAX.029-248-0215
 「クリクリ市毛」 〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛上坪1186-2 TEL.029-275-0262 FAX.029-275-0263
 「クリクリ金上」 〒311-0022 茨城県ひたちなか市金上1031-1 TEL.029-271-1607 FAX.029-271-1608

小規模多機能型居宅介護施設・認知症グループホーム

小規模多機能ホーム「クリクリ」・認知症グループホーム「クリクリ」
 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰140-17 TEL.029-352-0016 FAX.029-298-7750
 認知症グループホーム「クリクリ田彦」
 〒312-0063 茨城県ひたちなか市田彦950-48 TEL.029-275-8701 FAX.029-275-8702

認知症疾患事業部

アクセスマップ

